

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401151		
法人名	有限会社 ウジヤト		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	北海道函館市亀田港町60番28号		
自己評価作成日	平成25年10月31日	評価結果市町村受理日	平成25年12月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401151-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年は「個別支援を改めて考えてみよう」を掲げ取り組んでおります。日々の会話の中で聴かれた思いや、その方のバックグラウンドを改めて見返してみるなどし、具体的な支援の内容を決め、実行しております。一人の方は釣りが趣味であり、スタッフと一緒に川釣りへ行かれ、お酒好きの利用者様の、「ドンチャン騒ぎしたいね～」の言葉で居酒屋へ出掛け、昔よくパチンコに行ったんだ、との話からパチンコ好きのスタッフと出掛け勝利を収め、ご家族から、「昔はばあちゃんの家集合してたんですよ」との言葉とご本人の、「家さ帰る」との言葉から、「自宅で家族と過ごす」との企画を上げ、家族も快く承諾して下さい、親類の方も集まっての賑やかなひと時を過ごされる、など、具体的に取り組むことで、ご本人の普段とは違った表情を見ることができました。今回の個別支援を行なうことで、職員のやりがいへと繋がったことは大きなことだと思います。グループホームでの個別支援は当たり前のことではありませんが、改めて考え、取り組めたことは大きく、これらを今後も継続し行なっていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

交通量の多い幹線道路から北側へ200m程入った住宅街の中に位置し、玄関を入ると数匹の猫が出迎えて緊張をほぐしてくれる。直ぐ隣には同法人系列のグループホームのぞみ2号館があり、近くには北海道大学水産学部や函館水産高等学校があり学生も多い地域である。当事業所の優れている特色は毎月開催しているパン教室を通じ地域との関わり深さにある。パン教室に参加することで地域の方が利用者の顔や名前・身体状況などを把握し、火災訓練・防災活動の担い手やイベントの手伝い等、地域・家族・事業所が一体となった活動をしている。運営母体が営利法人であることから、月2回の訪問診療と訪問看護を導入して、利用者の健康管理に万全を尽くし、医療法人社団山樹会平山医院在宅医療連携チームの協力を得て、看取りを数多く経験して、家族と共に本人が最後まで笑顔で穏やかにしてほしいと願っている事業所である。ケア面では個別支援に力を入れており、利用者の希望でパチンコ・将棋・釣り・居酒屋等職員が同行したりお相手をして希望を叶えている。家族や総合施設長の協力を得て函館山から夜景を見物したり、時には外食に出かけステーキやピザパイなどが思い思いの好物に舌鼓を打つ楽しい時間を多く確保している。職員育成にも力を注ぎ、受験資格を得た職員は次々に資格取得にチャレンジし、そのためのシフト調整などバックアップ体制も整えられている。またスキルアップのため内・外部研修に参加する機会も多く、高い質を求め理想に向かって前進している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(1Fアウトカム項目) ※項目No.1～55まで日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として、「ゆとりある快適な生活環境を提供し、ノーマライゼーション理念のもとで心身ともに健やかに自立した人生を全うできるように、その環境・年齢及び心身の状況に応じ地域において必要な福祉サービスを総合かつ包括的に提供されるように援助することを目的とします」を作成し、玄関の入口やリビングに掲示し、個々で確認しながら実現に向けて取り組むよう心掛けている。又、毎月ユニット理念(目標)を掲げ、事業所理念と合わせて職員が意識を統一しケアに望めるよう取り組んでいる。	地域の中で心身ともに健やかで快適な自立した人生を送る事を根幹とした事業所独自の理念を掲げ、その理念を更に掘り下げ、今年度の全体目標は「個別支援を改めて考えてみよう」とし、更にユニット毎に毎月日々に密着した具体的ケア目標を作り上げて、翌月の職員会議で評価し、管理者と全職員はその理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りや新年会に参加させて頂いたり、ホームで毎月行なわれるパン教室には町内会の方々に参加して頂くなど、交流の機会を作っている。	利用者は七夕に地域の子供達が立ち寄るのを楽しみにしている。町内会の夏祭りの盆踊りや新年会に参加したり、事業所が毎月開催するパン教室は参加者も多く、町内活動として地域に根付き、双方向的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで行なわれるパン教室に地域の方々に参加して頂くことで認知症の方への理解を得られているように思われる。又、外出の機会を多く持つことで、地域の方々とのおふれあいを通し認知症というものを知って頂く機会を持っているのではと思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに行なわれる運営推進会議では、ご家族や町内会の方々、役所や地域包括支援センターにも参加して頂き、意見やアドバイスを頂き、サービス向上に活かせるよう職員全体で取り組んでいる。	2か月毎に町内会・家族・行政・包括の方々が出席して開催している。事業所からは行事報告や利用者の日常生活ぶりを写真等で報告し、出席者から意見やアドバイス等をたくさん頂いてサービス向上に活かしている。議事録はお便りと共に全家族に送り報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで市の担当者に事業所の取り組みなどを報告し、アドバイスを頂きながら取り組んでいる。	介護保険認定更新時や相談事・事業所の取り組みを報告し、市担当者・包括支援センターとは積極的に連携を図り協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などの禁止行為を正しく理解できるよう定期的に会議などで話し、又、研修などの機会があれば参加し、職員全体へ報告を行い、全体での理解に努めている。夜間は安全面を考慮し、ご家族からの了承を得て、夜8時以降は施錠をしている。	身体拘束ゼロの手引きを参考にして、内部研修を繰り返し実施し、正しく理解できるように努めている。身体拘束委員会を3か月毎に開催し、身体拘束禁止事例を基に検討している。外部研修に参加した職員は報告をして全職員で共有している。	

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する講習を受講し、内容をユニット会議などで報告している。又、毎月行なわれているユニット会議で身体拘束について話し合い、合わせて虐待にあたる行為はないか再確認を行っている。又、3ヶ月ごとに、「身体拘束廃止委員会」を開催しユニット間で情報交換を行い身体拘束にあたる行為について意見交換を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に関する研修など、近年での研修参加はなく、現在においては制度を活用される方がいない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、ご本人や家族にホーム内を見学して頂き、理解、納得をして頂けるよう説明をし、契約時には利用料、医療連携体制、入居にあたっての留意事項など、契約書や重要事項説明書に基づき説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には入居者様の様子を報告すると共に、ご家族の要望や意見を話して頂けるような機会をつくり、頂いた意見などはその後ユニット会議などの議題として上げ、改善すべき点があれば速やかに対応できるよう体制をとっている。又、玄関フロア入り口には意見箱を設置している。	面会時に些細な事でも気軽に話していただけるように雰囲気作りに配慮し、表出した意見や要望は速やかにユニット会議などで検討し運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議やユニット会議で意見や提案を聞き、施設長や社長も出席する管理者会議にて提案している。	施設長は申し送り時に職員とコミュニケーションを図るよう日頃から心がけ要望や意見・アイデアなどを聞きだし、必要に応じて主任会議・ユニット会議・施設長や社長が出席する管理者会議などで話し合い反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長が毎朝の申し送りや定期的な職員とのコミュニケーションにて状況を把握し、代表者に報告している。また、希望する研修などに行けるよう配慮し各職員が意欲的に働く事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修ファイルを作り、常に研修の実施など職員全体で共有し自らの希望や代表者や管理者の指示にて研修を受ける機会を作り一人一人の技術、知識の向上に努めている。研修後は発表できる場を作り情報を共有できるようにしている。また、ユニット会議でその時の状況に合わせた勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに参加することで同業者と交流する機会がある。近年ではGH協会の忘年会や懇親会などに参加し交流の場を広げている。今後は相互訪問等の機会を作れるよう努力していきたい。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い本人やご家族に直接会って話を聞かせてもらい、施設の概要などを説明し、どのように暮らしたいかを伺い要望などには応えられる範囲を説明し、不安な事や疑問点については納得できるまで説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に、アセスメントと一緒に、ご家族の要望や心配事を聞かせてもらい、一緒に考えていく事で信頼関係を築く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約を頂く時点で、お話しを伺い、緊急性等の見極めや、待機期間に、どのようなサービスを活用しているか説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、一緒に家事作業等を行い、ご本人が出来る事は積極的に行えるような関わりをし、得意な事などは教えて頂いたり、持ちつ持たれつ関係を築けるよう努力している。又、何かをして頂いた時には、感謝の言葉を忘れずに伝えるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、毎月のお手紙で近況報告を行い、何かあった時は、都度電話連絡をし、問題があれば、ご家族と一緒に考えていける体制を取っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は、いつでも出来る体制で、ご本人が行きたい場所(墓参や買い物、釣りや外食、自宅等)には、個別に支援している。	同級生の方々が手料理を持参して来訪し居室で楽しい時を過ごしたり、家族の協力を得て10年ぶりに帰宅する事が出来た利用者は親戚の方々と再会し、家族と共に賑やかなひと時を過ごす等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行える、レクリエーションをしたり、他ユニットとの交流の場を作ったり、お互いに出来る事を行う事で、支えあって生活している。又、座席等も、関係を把握して、トラブルが起こらない様に配慮している。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は、殆どが亡くなった時であり、その後、ご家族との関係は継続していない。しかし、長期入院の為、契約終了となった方とは、お見舞いに行ったり、ご本人の経過等を聞いたり、ご家族との関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でのコミュニケーションを通し、本人の意向を把握できるよう努めており、又、ご家族からの情報も含めスタッフ間で検討しています。	生活歴や若い頃の写真などを基に職員の感性を駆使して、思い出すきっかけを作り常に新しい情報収集に努めている。困難な時は家族や友達から情報を得て本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族への聞き取りや、本人からの昔話を通して情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、入居者様の状態観察をし、アセスメントを行いながら自立への支援に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者及びスタッフは、入居者様が日々より良い暮らしをして頂くために、ご本人やご家族の希望収集に努め、又、主治医からの指示等も反映した計画に出来るよう、月末に行うユニット会議で職員全体で話し合いを行いながら作成しています。	担当制をとっており、センター方式を利用してカンファレンス・モニタリングを繰り返しユニット会議で検討し、本人・家族の要望や意見を取り入れ、主治医の指示も反映した現状に即した介護計画を作成している。全職員が介護計画とケアの連動性を確認するために#記号を使って記載し、パソコンで管理している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、介護計画に活かすことができるよう、各職員が、連絡、受診、家族、リスクの各ノートに具体的な内容を記入し共有しています。又、会議等では、それらをもとに検討し、介護計画に活かせるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の団欒やコミュニケーションの中から、入居者様の希望を聞き出すと共に、ご家族との連絡も密に行い、どうすれば対応できるかを職員間で検討し実行に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会などの季節の行事(イベント)に参加したり、買い物に行ったり、自施設にて定期的に消防士立会いのもと避難訓練を行い、地域の方にも参加して頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医を確認したうえで、協力医療機関などの説明(2週間ごとの内科往診、皮膚科往診)を行っており、利用契約前のかかりつけ医を希望される場合は継続受診ができるよう支援を行っている。	協力医療機関の内科医師と皮膚科医師が月2回往診している。在宅時からのかかりつけ医を希望される利用者には、継続受診が出来る様に支援し、受診には職員が同行して電話で家族に報告をしている。	

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、協力病院から看護師が訪問し血圧測定、採血などの健康管理を行っており、その際に入居者様の状態等を伝えアドバイスや受診の指示などを頂いている。又、入居者様の状態に応じた医療機関への受診の支援も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まった際には職員が生活、身体、精神状況を病院側に伝えている。又、定期的に面会に行き病院関係者より入居者様の状態などを確認し、早期退院へ向けた相談などをご家族も含め行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「グループホームのぞみ 看取り介護に関する方針」を作成し入居時に説明を行っており、入居時点での御家族の考えなどを聞かせていただいています。又、実際の終末期を迎えられた方への支援として、御家族へ再度看取り介護に関しての説明と同意をいただき、「看取り介護計画」を作成しチーム全体で最後まで安心して充実した日々を送っていただけるよう支援させていただきます。	看取り介護に関する方針を作成し、利用開始時に本人と家族に説明をしている。終末期に近づいた家族には再度看取り介護に関しての説明をして看取り介護計画書を交わし、医師・看護師・事業所・家族が方針を共有し安心して充実した日々を送れるように支援している。今までに数多くの看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルなどを作成したり全職員への周知を徹底している。救急救命などの講習やAED(2号館設置)の使用方法なども定期的に学べるよう取り組んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を行っており、消防の方や町内会の方々にも参加して頂いています。また、災害や火災時の緊急連絡体制も整え、マニュアルと合わせ日頃からそれらを意識できるよう事務所、リビングと目につくところへ掲示している。	年2回夜間想定避難訓練を消防署・町内会・家族の協力を得て実施している。緊急時連絡体制表やマニュアルを事務所やリビングに掲示している。利用者の身体状況が外部の方にも分かる様に、事業所見取り図の居室部分を色分けしている。備蓄品も用意している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が入居者様ひとりひとりのこれまでの生活や思いを尊重し、常に私達の人生の先輩であるという思いを忘れずに日々支援させていただいております。	職員は利用者を人生の先輩として敬い、個々の生活歴を大切にし本人のプライドを傷つけないようにさり気ないケアを心がけたり、自己決定しやすい様な言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者ひとりひとりの心身の状態、想いの把握に努め、やりたい事、希望を話せるよう環境作りを心掛けている。又、訴える事が困難な方には日々の関わりの中から想いを汲み取れるよう努力し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のペースを把握できるように日々の関わりを大切にしている。また、入所前の生活スタイル、自宅での生活の様子をご家族に伺い、その人にあった生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容院に出掛け、カット等ご本人の希望を聞き支援を行っている。出掛けることが困難な入居者には出張理美容などの対応を行っている。又、行事等の際は女性入居者への化粧などの支援も行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	医療面で食事制限のある方には、本人に説明を行い、納得していただけるよう努めている。また、入居者の出来る事を考慮しながら一緒に食事準備や調理を行い、利用者・スタッフが一緒に食卓を囲み、楽しく食事をしていたりできるように努めている。	献立は新鮮な旬の食材や菜園の収穫物を使い、利用者の希望や好みを取り入れて作成し、食事の一連の作業は職員と一緒にを行い、同じテーブルを囲んで会話をしながら食事をしている。食事制限の必要な利用者は医師と相談しながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や間食、一日の水分量の把握に努めている。食事内容に関しては献立係りを配置し、栄養のバランスや季節の物を取り入れ日々のメニューを作成している。また入居者一人ひとりの希望を聞き取り、献立に取り入れている。食事、水分量の減少や体重の増減が見られる際は、御家族や医師に相談しながら入居者の状態に合わせ、おかゆ、刻み、ミキサー食等の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、定期的な義歯の洗浄にて清潔保持に努めている。また口腔内の異変時には歯科往診に来て頂くなどの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表等を作成し個々の排泄状態の把握を行っている。状態に合わせた誘導や、時間帯での声掛けを行い、トイレにて気持ちよく排泄していただけるよう介護計画を作成している。また、失敗時には本人の自尊心を傷つけないよう考慮しながら清潔保持に努めている。	排泄表で排泄パターンを把握して誘導したり、状況に応じて時間を見計らって声がけをし、トイレでの排泄につなげた例もある。失敗した時は本人が傷つかなないように配慮してさり気ないケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便確認、毎日の体操、個人に合わせて牛乳や野菜、果物、食物繊維の食べ物等排便を促しやすい飲食物を摂っていただいている。又、便秘がひどい方にはかかりつけ医へ相談し便秘薬などの対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後が入浴の時間になっているが、入浴日については利用者様の希望なども確認し、心地よく入浴していただけるように支援している。又、利用者の体調に合わせて、無理せず入浴していただいている。温泉が好きな利用者様には行事などを企画し外出し温泉を楽しんでいただくよう支援している。	心地よく入浴していただくために希望や体調に合わせて無理せず行っている。1階浴室には側面が上下する特殊浴槽が設置され、スライド板も利用して車イスや介護度の高い方も入浴を楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人や家族から生活習慣(就寝、起床時間や昼寝)を教えて頂き、個々の睡眠時間は職員全体で把握し、不眠の場合はその状況に応じて話を傾聴し安眠できるような促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の「与薬一覧表」を作成し、効能、副作用などの把握に努めている。服薬の際にはスタッフ同士が声を掛け合い誤薬のないよう都度確認を行っている。また、薬の管理も利用者様の手が及ばない場所へ保管し、内服薬の、紛失、誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から、それぞれ得意なこと・出来そうなことを観察し、個々の状態に合わせた家事作業やレクリエーションを行って頂いている。また、年間行事予定を作成し季節に応じた行事を企画し、ご家族にも参加して頂いている。又、スタッフとの買い物や、外出、町内会の催し物への参加、床屋へ出掛けたり、散歩に行ったりと活気のある生活を送って頂けるよう支援を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望時(買い物、散歩、床屋、外食)には出来るだけ希望に沿えるよう職員間で連携し支援を行っている。どうしても希望時に外出できない時は、本人にその旨を説明し、外出の日を決めて理解、納得して頂けるよう心掛けている。又、普段はあまり行かない夜間の外出支援も、地域への協力を求めた上、ご家族にも理解を頂き、支援をしている。	買い物や散歩など利用者の希望に副える様に支援している。夜間の外出や季節毎の遠出のドライブ・近くのショッピングセンターでゲームや外食を楽しむ等、積極的に外出しリフレッシュ出来る様に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から希望がある場合はご家族と相談の上、お金を所持して頂いている。買い物や自動販売機での飲み物の購入の際には、商品の選択やレジでの支払いなどの見守りと一部支援を行いながら、できるだけ本人に行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には、取次の支援や見守りを行いながら、いつでも自由に電話を使用して頂けるよう支援を行っている。手紙に関しては現在のところ郵送の希望者はいないが、ホームに届いた年賀状などは希望があれば本人に読んで聞かせるなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や光の入り方、空調での室温管理など利用者の意見を取り入れ自由に調節できるよう配慮している。また、家庭菜園の水やりや草取り、収穫を一緒に行ったり、リビングの設えに季節を感じて頂けるような工夫をしている。	居間の一角が座敷になっていて、和の雰囲気を醸し出し、窓から入る陽射しはレースのカーテンで調節され、テレビの音量や室温管理は利用者の希望を取り入れて行っている。壁には絵画や塗り絵・行事・外出時の写真がたくさん飾ってあり、車椅子やソファに座った時の目線に合わせた位置に時計や日めくりカレンダーが掛けられ見やすい工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの構造上、一人になれる空間はなく、各居室やリビングにある座敷、又は事務所にて過ごして頂いている。また、食卓での座席や、リビングソファで過ごして頂く際には、利用者同士の相性も考慮し安心して頂けるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者やご家族と相談しながら、安心してお部屋を使用して頂くためにも、在宅時に使用していた家具や写真などを持ってきて頂き、居心地の良い空間をつくれるように工夫して取り組んでいる。また、入居後は本人の希望を取り入れながら、お花を飾ったり、ご家族の写真を飾ったりなど、個々の好みに対応させて頂いている。	使い慣れた家具や写真・思い出の品々・位牌等を持ち込み、本人が居心地よく生活出来る様に工夫している。居室にはクローゼットが備え付けられ、持ち込んだ収納ケースや衛生用品はこの中に納め、居室はゆったりとした居心地のよい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の生活空間の随所に手すりを設置し、浴室内の床は滑りにくい材質の物を使用したり、階段にも滑り止めを設置している。各居室の前に表札などの目印を設置したり、トイレの前には表示を大きく、見やすくするよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401151		
法人名	有限会社 ウジャト		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	北海道函館市亀田港町60番28号		
自己評価作成日	平成25年10月31日	評価結果市町村受理日	平成25年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401151-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2Fアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「ゆとりある快適な生活環境を提出し、ノーマライゼーション理念のもとで心身共に健やかに自立した人生を全うできるようにその環境において必要な福祉サービスを総合かつ包括的に提供されるように援助することを目的とします」を作成し各所に提示している。又、ユニット理念を毎月毎に掲げ提示し、個々の意識向上に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りや新年会などの催し物に参加させていただいたり月1回のパン教室に町内会の方たちに参加していただき交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで行なわれるパン教室に地域の方々に参加して頂くことで認知症の方への理解を得られているように思われる。又、外出の機会を多く持つことで、近隣の方々ともふれあいを認知症というものを知って頂く機会を持っているのではと思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに行なわれる運営推進会議では、ご家族や町内会の方々、役所や地域包括支援センターにも参加して頂き、意見やアドバイスを頂き、サービス向上に活かせるよう職員全体で取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで市の担当者に事業所の取り組みなどを報告し、相談や確認、アドバイスを頂きながら取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会による会議を定期的に行い身体拘束などの禁止行為を正しく理解できるよう話し合いし、又、研修などの機会があれば参加し、職員全体へ報告を行い、全体での理解に努めている。夜間は安全面を考慮し、ご家族からの了承を得て、よる8時以降は施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修を受けユニット会議等で報告している。高齢者虐待に関する講習を受講し、内容をユニット会議などで報告している。又、虐待にあたる行為はないか再確認を行っている。又、3ヶ月ごとに、「身体拘束廃止委員会」を開催しユニット間で情報交換を行い身体拘束にあたる行為について意見交換を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に関する研修など、近年での研修参加はなく、現在においては制度を活用される方がいない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用料、医療連携体制、入居にあたっての留意事項など、契約書や重要事項説明書に基づき説明を行なっている。又、入居前には、ご本人や家族にホーム内を見学して頂き、理解、納得をして頂けるよう説明をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には入居者様の様子を報告すると共に、ご家族の要望や意見を話して頂けるようなじみの関係作りに取り組んでいる。又、日々の会話の中や表情、行動にて意見や不満を読み取ることが出来るよう観察している。御家族、利用者から意見が聞かれた際はユニット会議にて検討、改善すべき点があれば速やかに対応できるよう体制をとっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議やユニット会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け、施設長や社長も出席する管理者会議にて提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎朝の申し送りや定期的な職員とのコミュニケーションにて状況を把握し、代表者に報告している。また、希望する研修などに行けるよう配慮し各職員が意欲的に働く事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修ファイルを作り、常に研修の実施など職員全体で共有し自らの希望や代表者や管理者の指示にて研修を受ける機会を作り一人一人の技術、知識の向上に努めている。研修後は発表できる場を作り情報を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに参加することで同業者と交流する機会がある。又GH協会の忘年会や懇親会などに参加し交流の場を広げている。今後は相好訪問等の機会を作れるよう努力していきたい。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い本人やご家族に直接会って話を聞かせてもらい、施設の概要などを説明し、どのように暮らしたいかを伺い要望などには応えられる範囲を説明し、不安な事や疑問点については納得できるまで説明を行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にアセスメントと合わせてご家族の要望や心配事を聞かせてもらい一緒に考えていくことで信頼関係を築いていくようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約をされる時点でお話を聞き、緊急性などの見極めや待機の間どんなサービスを活用できるか説明を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、一緒に家事作業など行いご本人が出来る事は積極的に行えるようにし、得意な事は教えて頂いたり、何かしてもらった時には感謝の言葉を伝えるなど持ちつ持たれつの関係を築くようにしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、毎月の手紙で状況報告行い、何かあった時は、電話連絡をし、問題があれば御家族と一緒に考えていける体制をとっている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも出来る体制で、ご本人が行きたい所(買い物等)には、個別に支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しめる、レクリエーションをしたり、他ユニットとの交流の場も多く作ったり、お互い出来る事を行う事で、支えあって生活している。又、座席等も、関係を把握して、トラブルが起こらないように配慮している。			

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は、殆どが亡くなった時であり、その後、ご家族との関係の継続はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活パターンを把握したり、御家族より情報を得て、希望に沿えるよう、職員全体で努力している。また、日々の会話の中から本人の希望や要望などを聞くことができるようコミュニケーションを多く図るよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族に協力をお願いし、情報収集をしながら、馴染みの暮らしを継続出来るよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、御家族より教えて頂くと共に職員全員で日々の利用者の観察を行ない、1日の過ごし方、心身の状況、有する力の把握に努め、本人の負担にならないかを常に確認、見守りしながら家事手伝い等出来ることを行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議でプランの確認をしている。プラン更新では、アセスメントの原案を各担当スタッフが作成し計画作成担当者と協力している。日々の生活を把握し、御家族の来所時に近況報告、相談などを行ない、それを踏まえ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを活用し24時間の記録を行なっている。入居者様の受診状況や日々の様子などはノートを活用し職員間で情報を共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活から本人の希望・要望を聞き出すと共に、御家族へ状況を説明し、意見要望を取り入れ、職員間の連絡を密にし柔軟な対応を行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺地域にホームの情報を伝え、理解を広げるよう働きかけを行なっている。又、定期的に消防士立会いのもと避難訓練を行っており、その際は近隣、町内会の方にも協力をお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の希望する医療機関や入居前のかかりつけ医の受診を行なっている。特に希望が無い場合は協力医療機関での受診を行なっている。また協力医療機関による月2回の訪問診療体制、24時間の医療連携体制を確保している。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制として協力病院より看護師に来て頂いており、医師の往診も行なっている。また変化時には24時間連絡可能な協力医療機関も確保しており、いつでも相談できる状況である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が必ず付き添い、本人のホームでの状態等の情報を医療機関に提供している。入院中は定期的に訪問を行ない、本人の不安な気持ちを軽減できるように努めている。早期退院出来るよう、御家族、医療機関と情報交換を密に行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの看取り、医療機関での終末期に対し、入居して頂く際に本人、御家族と終末期のありかたについて話し合いを行っている。ホームとしてはすでにターミナルケアに取り組んでおり、医師、職員が終末期の対応について更なる検討を続け、方針の共有やその支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成し、全職員に徹底・周知を行っている。また外部研修会の参加やユニット会議などで勉強会を実施し職員の知識向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内で日中、夜間体での火事・地震を想定した避難訓練を定期的に行っており、消防職員にも立ち会って頂いている。また、運営推進会議にて避難訓練の報告を行ない、町内会の方々にも参加して頂き災害に備えた実践的な訓練を実施することで、地域交流をも合わせて図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の性格や状態をご家族・本人に聞き取りを行うことで把握し個々を尊重した言葉掛け対応を行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員間での情報交換を常に密に行ないながら、利用者の心身の状態の把握に努めることで利用者それぞれに選択の場を提供し自己決定できるような声掛けを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御家族から生活状態の情報提供や、利用者様の観察やコミュニケーションから本人の希望を感じ取り、出来るだけ希望に沿った生活を送って頂くよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からどのような服装を好んでいたか等を利用者様やご家族に確認し本人らしさを保てるよう支援している。行事や外出時には女性は化粧をする。男性は帽子をかぶる等、おしゃれを楽しめるよう努めている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所以前の食事習慣や嗜好味付け等の情報をご家族より教えて頂き、食事を楽しみながら摂取して頂けるよう心掛けている。また一緒に準備・調理・片付け・利用者と職員と一緒に食卓にて食事を摂取することで食事中の会話を楽しんで頂けるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事量、水分量の確認を行っており、食事内容に関しては栄養バランスの取れた食事を提供し、個々の身体状況に合わせ、刻み、とろみ、お粥、小盛りなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや定期的な義歯の洗浄をし常時清潔が保持できるよう努めている。また、痛みや腫れ等の変化があった際には歯科受診、往診にて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況の把握を行ない、定期に誘導し本人から尿意・便意の訴えがあった場合も誘導行なっている。出来るだけトイレにて排泄して頂けるよう支援している。また排泄失敗の際は本人の自尊心を傷つけないよう配慮しながら清潔保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の確認を行ない便秘にならないよう運動や食物繊維、水分摂取等を心がけている。便秘がみられるようであれば、医師と相談し薬等で調整行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に毎日午後が入浴の時間となっている。利用者の希望に合わせて湯加減を調節する等、心地よく入浴して頂けるよう対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御家族、本人より過去・現在の生活習慣の情報提供をしていただくと共に日々の会話、様子観察の中から要望をくみ取り、その要望に沿った生活を過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に与薬一覧表を作成し、都度確認を行なうと共に、服薬後も入居者様の症状の変化・様子の観察を行なっている。また、誤薬防止の為、服薬して頂く前に職員による重複チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や御家族から生活歴や得意な事、趣味を教えていただいたり、日常生活の中から考察し、個々の状態に合わせ役割を分担・共同作業を行なっている。外出希望がある方には町内会の出し物、散歩など気晴らしが出来るように支援している。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を汲み取り楽しんで頂けるよう、ご家族同行での外出や職員とのドライブ、地元観光地などへの外出等ご家族・地域の方々の協力のもと支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、小銭入れを持っている入居者様もあり、購入の訴えがあった時は本人が支払いが出来るよう見守りし購入するよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話の希望があった時は家族・親戚・知人に電話取次し、いつでも会話をして頂けるよう支援している。また、希望があれば手紙も本人に書いていただき、自由に連絡をとって頂けるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気、テレビの音量や日当たりなどを自由に調整出来るように配慮して、スタッフも目配り行ない調整行なう。居室、トイレなどを確認し掃除している。また入居者と貼り絵・絵画を作成し季節感のあるものを掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が個室となっているため、独りになりたい時は個室へ戻られる。リビングにはソファや食卓、座敷とあり入居者様が自由に座り会話出来るよう配置等に配慮してある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使うものは家族に持ってきていただき使用されている。以前より本人が使用していたものの為、自分の部屋だと認識ができ、落ち着いた生活が出来るよう工夫している。また、家族の写真やレクリエーションでの作品を飾ったりと本人の希望も取り入れている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、リビング、トイレ、浴室、階段に手すりを設置している。浴室には滑り止めを設置し、自立の方も介助の方も入れるようになっている。1階の特殊浴槽に入られる方もおり安全に入浴できるよう努めている。トイレは2種類あり大きなスペースのあるトイレには車椅子でも出入りしやすくなっている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム のぞみ

作成日：平成 25年 12月 18日

市町村受理日：平成 25年 12月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	今年度の外部評価での指摘点はありませんでした。しかし、昨年度の問題点、課題で上げられていたものの、具体的な取り組みができなかった、「地震災害に対する取り組み」を今一度目標に掲げ、具体的な取り組みを行っていきたい。	行政(消防、警察)からの指導を受けながら当施設でも停電、地震等による災害時の対応を明確にしていく。	避難経路や津波時の避難場所、職員の連絡網の再確認を行い、職員全体で把握できるよう掲示する。地震災害などを想定した避難訓練も計画していく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。